

科目名	地域と社会	備考	
単位数	2 単位	授業形態	講義

熊 田 俊 郎

《都市の本質から埼玉を中心とする地域社会を理解する》

1. 授業内容

都市は人類が作り出した最高の傑作であるといわれる。その都市について総合的に講義する。今日先進国人口の8割近く、世界全体の人口の約半数が都市居住者である。今日地球上に60億人を超える人が住んでいるが、そのうち約30億人は都市に住む。20世紀を代表する都市はニューヨーク、パリ、ロンドン、東京など先進国の大都市であった。21世紀を代表するものは膨大なスラム人口を抱える途上国の巨大都市になる。21世紀の地球環境問題や人口問題は都市問題であるという側面を持つ。本講義はこれから起こる多くの社会現象の基礎理論としての都市論を理解することを目標とする。本科目は「地域政策」とあわせて行政職を志す者、都市に関する一般的な知識を得たい者に適した科目である。

内容は、第1に都市およびそれと対になる農村を対照させながら、地域社会の伝統的姿、工業化以降の今日まで続く姿、グローバリゼーションの進展に伴って急速に現れた現代的姿を概観する。第2に都市の人口学的側面や空間構造、都市社会の特性など基本的な事項を都市社会学を中心とする都市研究の歴史を追いながら説明する。第3に都市の本質を、都市が単なる人口の集積以上のものであることを結節機関説、統合機関説などを通して説明する。第4に今日の都市のあり方を大きく規定しているグローバリゼーションという社会変動過程が都市にどのような変化をもたらしたのかを明らかにする。第5に政治やマスコミという観点からの都市の潜在力について説明する。第6に祭りや地域組織など伝統的要素が現代都市を考察する上でいかに重要かを説明する。最後に東京大都市圏についてまとめて考えてみる。また2011年3月の東日本大震災を踏まえて、大災害と都市について考察する。

大学が所在する埼玉県西部地区は東京大都市圏の一部を構成することに留意しながら講義を行う。

2. 到達目標

都市についての基本的理解を得ることを目標とする。とくに外国の都市を訪れたときに摩擦を起こさず、その市民生活がどうなっているかを理解し、あるいは何を知ればよいのか知る方法を即座に見出せるようにする。

3. 到達目標となる駿大社会人基礎力/養成する能力要素（スポーツ科学部）

課題発見能力、問題解決能力

4. 卒業認定・学位授与方針との関連

この科目はディプロマ・ポリシー(全学部)の「(5)総合的な力」と関連しており、地域社会現象を総合的にとらえる視点を身につける。

5. 関連科目

社会学、歴史学

6. テキスト・参考書等

参考書：藤田弘夫・吉原直樹(編)『都市社会学』有斐閣 1999

※さらに詳細な参考文献は講義の中で指示する。

7. 授業外における学習方法及び必要な時間

都市は書物の中だけでは理解できない。可能な限りまちを歩くこと。とくに外国の都市を見ておくこと。

必要な準備時間、参考文献予習 3 時間、実地見学を利用した学習 1 時間、計 4 時間を要す。

8. 成績評価方法

評価種別	割合 (%)	成績評価基準・その他備考
定期試験	70	到達目標に示した「都市についての基本的理解」が身についたか確認の試験を行う。
小テスト	30	到達目標に対応し、内容が一段落した段階で理解力を確認する小テストを半期に 2~3 回行なう。

9. 課題に対するフィードバックの方法

内容が一段落した時点で小テストを行い、採点返却し、解説をする。

ただし履修者が 100 名を超える場合には個別の返却を行わず解説のみとする。

10. 実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験：

実践的な教育の取組：

11. 授業計画

第 1 回	写真と古地図で見る日本・世界の都市
第 2 回	都市と農村①ヨーロッパ、中国、日本の比較
第 3 回	都市と農村②工業化と都市、都市問題の発生
第 4 回	都市と農村③脱工業都市、世界都市
第 5 回	都市の人口学的側面、空間構造
第 6 回	都市の本質と都市研究の歴史
第 7 回	都市と全体社会①後背地論とメガロポリス-東京大都市圏と埼玉西部
第 8 回	都市と全体社会②結節機関説、統合機関説-東京大都市圏と埼玉西部
第 9 回	都市と全体社会③世界都市論-東京大都市圏と埼玉西部
第 10 回	グローバリゼーションと都市①移民と移動-東京大都市圏と埼玉西部
第 11 回	グローバリゼーションと都市②多文化社会化-東京大都市圏と埼玉西部
第 12 回	都市と情報・権力-東京大都市圏と埼玉西部
第 13 回	都市の伝統世界と都市民俗-東京大都市圏と埼玉西部
第 14 回	東京および東京大都市圏の歴史
第 15 回	都市とは